

河川維持管理技術 in 四万十 現地講習会 24名が受講

雨天の中、堤防・樋門の変所箇所の点検と評価を観察・討議



◆R1年11月18日、四万十川支川後川・中筋川において河川維持管理技術に関する現地講習会が実施されました。
◆当講習会は、河川維持管理技術の向上と維持管理技術者の拡大を目指し、四国河川維持管理検討会、(一社)四国クリエイト協会、四国河川維持管理技術者会の共催で実施されたものです。
◆当日は、高知県幡多地区を中心としたコンサルタント・建設会社より24名の受講者と国交省中村河川国道事務所4名、講師10名(現地講師補助を含む)の計38名の参加で熱心に実施されました。

講習会では、室内で下記のような講義を受けた後に、現地に出向き、堤防の排水不良・湿潤箇所、寺勾配や湿生植物繁茂箇所、樋門の継手開きや護岸の段差箇所などについて、変状内容を確認すると共に、現地講師陣より調査方法の実演や変状要因、評価ポイント等について説明を受け討議しました。



■室内（四万十川防災ステーション）

- ◇あいさつ 四国地方整備局河川部河川管理課長 渡邊 健二
- ◇河川維持管理技術の向上と現地講習会について
(一社)四国クリエイト協会 専務理事 藤山 究
- ◇堤防等の点検・調査における評価ポイント等について
四国地方整備局中村河川国道事務所副所長 内山俊浩

■現地（四万十川支川 後川・中筋川）

- ◇現地講習会(堤防2箇所、樋門2箇所で開催)
(一社)四国クリエイト協会 四万十支所
技術部長 高橋 弘 外

【参加者の感想・意見等】

- ・現地の状況がよくわかった。
- ・評価の仕方やポイントが認識できた。
- ・出水直後の状況把握が重要である。
- ・河岸部は船上巡視で気になる箇所を把握している。
- ・徒歩で確認することが良い。
- ・近年、高水敷で湿潤箇所が増えている感じがする。
- ・点検では高水敷や低水護岸肩部の除草も必要。